

特集 医療機関で求められる心理社会的治療——モデルプログラムの提案——

医療機関で求められる心理社会的治療——モデルプログラムの提案——

池淵 恵美

今回のシンポジウムは、心理社会的治療のモデルプログラムとそれを支えるスタッフの育成について議論を深めるために企画された。薬物療法と共にエビデンスのある心理社会的治療を行っていくことの重要性は周知のことながら、実際には一部の先進的な機関で取り組まれているものの、十分には普及していないように思われる。病棟の場合には理想はともかくとして現場の実情に合わせて「やれるものをやる」のが実態であろうし、外来はそのマンパワーの貧しさから、心理社会的治療については医師の短時間の外来診察を中心に据えざるを得ない状況であろう。地域でさまざまな自立支援機関が生まれ、当事者活動も展開されるようになっていて、回復と社会生活の向上をサポートしてほしいという当事者や家族の期待は高まっているが、医療機関はそれに十分にこたえ切れていない。そこで一般の医療現場で実施可能でかつエビデンスに基づく心理社会的治療とはどのようなものであるのかについて、当面の合意作りを行うことと、そうしたことを可能にするために最も重要であるスタッフの成長をどうしたら保証することができるのかについて、このシンポジウムでは議論した。

まず社会生活技能訓練 (social skills training, SST) のエキスパートである白瀉光男氏により、「急性期・デイケアなどの多様なニーズに対応して SST のプログラムをどう組み立てるか」をお

話しいただいた。氏の運営するこおりやまほっとクリニックのデイケアでは先進的な心理社会的治療が試みられており、参加するメンバーのリカバリーを目指している。クリニックのデイケアの一つのモデルと考えられる。

次に「急性期・デイケアなどの多様なニーズに対応して心理教育のプログラムをどう組み立てるか」について、内野俊郎氏にお話しいただいた。氏の所属する久留米大学医学部精神科では早くから病棟で心理教育が体系的に行われており、急性期病棟のモデルとなっている。多様な疾患に対しどうプログラムを行っていくのか、創意に富んだ工夫が発表された。

精神・神経医療研究センター精神保健研究所の伊藤順一郎氏による「精神科医療機関に必要なアウトリーチサービスのスキルと研修」では、地域ケアの時代に移行しようとしている我が国において中核となる技術の1つであるアウトリーチサービスを、どのようにして通常の医療に組み込んでいくことができるか、先駆的な試みを伝えていただくとともに、医療機関で地域ケアにかかわる際の最も重要な課題である、理想と腕を併せ持つスタッフの養成について、これまでのご経験をもとに啓発的な方向性を示していただいた。

のぞえ総合心療病院の堀川公平氏には「我が国において心理社会的治療を求め、生かし得る精神科病院とは——精神医学、医療モデル、医療シス

第107回日本精神神経学会学術総会=会期：2011年10月26～27日，会場：ホテルグランパシフィック LE DAIBA，ホテル日航東京

総会基本テーマ：山の向こうに山有り，山また山 精神科における一層の専門性の追求

シンポジウム：医療機関で求められる心理社会的治療——モデルプログラムの提案—— 座長：後藤 雅博（新潟大学医学部保健学科地域・精神看護学），池淵 恵美（帝京大学医学部精神神経科学教室）コーディネータ— 池淵 恵美

テム、経営管理システムの視点から——」と題してお話しいただいた。氏は力動的な精神療法や集団精神療法のエキスパートである。心理社会的治療は集団で実施されることが多く、スタッフもチーム医療でかかわる。患者集団、スタッフ集団それぞれにさまざまな力動が働き、両者のダイナミックな相互作用がある。よいサービスを提供するうえではそうした知識と介入技術が必要であるが、氏にはそうした力量を背景としたチーム運営についてお話しいただいた。

最後に池淵より、「モデルプログラムとそれを支えるスタッフ研修の提案」を行い、指定討論として心理社会的治療全般について通暁している後藤雅博氏（新潟大学医学部保健学科）から、シンポジウムのまとめと今後の方向性について提案があった。

シンポジウムのキーワードは「希望」であった。さまざまな心理社会的治療に共通の中核的な理念・技術として、絶望の中にあっても関心を持ち信頼を育て、関係性の中で希望を培う技術と、そうしたことを可能にしていくスタッフの育成について、踏み込んだ発言が行われた。精神医療の現場の中で、当事者や家族の強みを信頼し、希望を見出していくことは、まさにリカバリーのプロセスそのものであり、言明は易しいが、間断のない専門家としてのかかわりと理念と技術が必要な事柄である。フロアからの西園昌久氏の発言にも助けられて、新しい介入の特質にとどまらない、古くからの心理社会的治療の本質について、充実した議論ができたものと自負している。詳しくは各氏の書かれたものをお読みいただければと思う。